

ROKIN REPORT 2023



中央労働金庫
ミニディスクロージャー誌

働くみんなの未来を描く、中央ろうきん。

〈ろうきん〉は、「安心・安全・健全」をテーマに、全力で取り組んでいます。

ろうきんの基本姿勢

- 目的** ろうきんは、働く仲間がつくった福祉金融機関です
 ろうきんは、労働組合や生活協同組合などの働く仲間が、お互いを助け合うために資金を出し合っった協同組織の金融機関です。
 ろうきんは働く人たちの暮らしを支え、快適で過ごしやすい社会づくりに寄与することを目的としています。
- 運営** ろうきんは、非営利・公平・民主的な運営の金融機関です
 ろうきんは、労働金庫法に基づいて、営利を目的とせず、公平・民主的に運営されています。
 ろうきん独自の運営に共感する人たちの輪が、働く人の団体・市民の参加を得て、全国で1,100万人の人たちに広がっています。
- 事業** ろうきんは、生活者本位の金融機関です
 ろうきんの業務内容は、預金・融資・各種サービスなど、一般の金融機関とほとんど変わりません。しかし、ろうきんでは資金の運用が、生活者本位に行われているのが特長です。
 働く人たちからお預かりした資金は、住宅・マイカー・教育資金など、働く人たちの生活を守り、より豊かにするために役立てられています。

中央ろうきんと全国ろうきんの状況		※2023年3月末現在	
	中央ろうきん	全国ろうきん(13金庫)	
総預金残高	6兆9,092億円	22兆9,597億円	
貸出金残高	4兆6,733億円	15兆2,905億円	
出資金	289億円	969億円	
団体会員数	11,567会員	48,523会員	
間接構成員数	4,087,017人	11,820,909人	
常勤役員数	3,127人	11,211人	
店舗数	140店舗*	605店舗	

*中央ろうきんの店舗数には、バーチャル店舗(インターネット中央支店・中央ふれあい第一支店)を含みます。

商品・サービスについてのお問い合わせ

ハロー (ろうきん)コール
0120-86-6956
(営業時間:月～金9:00～18:00/土日祝休)

※本誌に記載した数値は原則として表示単位未満の端数を切り捨てています。また、比率等は原則として小数点第3位を切り捨てて、第2位までを表示しています。
 ※更に詳しいディスクロージャー誌はホームページで公開しています。

生活応援運動の展開

2022年度の勤労者を取り巻く環境は、資源価格の高騰の影響による物価上昇など、依然として厳しい状況が継続しました。かかる状況を踏まえ、組合員に対する生活応援運動を「対面」と「非対面」を組み合わせ実践してまいりました。
 具体的には、会員・推進機構と連携して他行・他社ローンの借換え運動を着実に進めることで、組合員の可処分所得の向上に貢献しました。また、物価上昇による資産の目減りを抑制するためにも、長期・積立・分散投信による資産形成の重要性・有効性を訴求する取り組みを実践しました。
 2023年度においても、生活応援・生活防衛に資する取り組みを実践し、金庫に求められる役割を發揮してまいります。

CSR経営の実践

2022年度は第7期中計・事業計画に基づき、社会的課題の解決に直接対応・関連するものをCSR課題として抽出・選定して取り組みました。
 なかでも職域における「金融リテラシーの向上」の取り組みは、コロナ禍以前を上回る回数の各種セミナーを開催しました。地域での「金融教育」の取り組みは、消費者問題や消費者行動をテーマとする大学の演習(ゼミ)への授業協力を引き続き行いました。また、大学生の約2人に1人が何らかの奨学金を利用する現状を踏まえ、大学ゼミとの合同プロジェクトとして金融教育教材「新・大人社会へのパスポート3 奨学金のオモテとウラ 一知って納得! 奨学金の正しい利用・上手な返済」(DVD・ワークブック)を制作しました。学校や行政・自治体、消費者団体等へ提供するとともに、どなたでも視聴・閲覧できるように金庫ホームページでも公開しています。
 そのほか、「環境配慮」「人権配慮」「社会貢献活動」など、主管部・関係部が連携して取り組みを推進しました。
 加えて、社会環境が大きく変化していることから、金庫が取り組むCSR活動についてステークホルダー(会員・地域社会・金庫職員)から意見・要望をヒアリングし、その内容を反映してCSR重要課題を見直し・再特定しました。



若年者向け金融教育DVD & ワークブック

SDGsへの取り組み

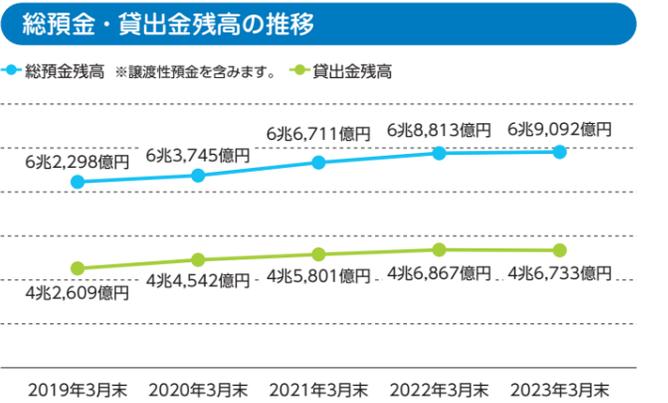
SDGsのスローガンである「誰一人取り残さない」や、全ての人が必要な金融サービスにアクセスでき利用できる状況をめざす、いわゆる「金融包摂」の考え方は、〈ろうきん〉の設立経過や「ろうきんの理念」「ろうきんビジョン」と合致するものです。
 〈ろうきん〉業態では、SDGsの実現に向けた取り組みを展開するにあたり、「ろうきんSDGs行動指針」を2019年3月に策定しました。
 〈中央ろうきん〉においてもこの指針に則り、労金運動を通じた勤労者の生活向上という、〈ろうきん〉の使命を徹底追求することを通じて、〈ろうきん〉に期待される協同組織金融機関としての役割発揮とSDGs達成に向けて取り組んでいきます。



預金・貸出金残高の推移

〈中央ろうきん〉の総預金残高は前年度比279億円増加し、6兆9,092億円となりました。貸出金残高は前年度比134億円減少し、4兆6,733億円となりました。
 その結果、2023年3月末の預貸率は67.63%となりました。

総預金残高 **6兆9,092億円**
 貸出金残高 **4兆6,733億円**



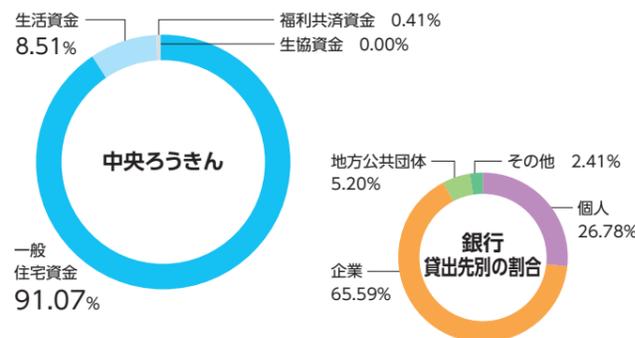
お預かりした預金の使いみち

〈ろうきん〉は営利を目的としない金融機関。皆様からお預かりした預金の使い方も、一般の銀行とは大きな違いがあります。銀行が65.59%を企業に融資しているのに対し、〈中央ろうきん〉は、99.58%とそのほとんどを個人のお客様にご融資しています。働く人々の生活をより豊かにするために役立てられているのです。

個人のお客様へのご融資（一般住宅資金+生活資金）

99.58%

貸出金の使途別割合 ※2023年3月末現在



※2023年3月末現在/日本銀行統計データより算出

経営体力

自己資本比率は、金融機関の自己資本の状況が適当であるかどうかを判断するための基準として法令により定められた金融機関の健全性をあらわす指標の一つです。

〈中央ろうきん〉のように、国内業務のみを行う金融機関の自己資本比率は、法令で4%以上（国内基準）であることが求められています。

〈中央ろうきん〉の自己資本比率は9.22%となっており、国内基準の4%を大きく上回っております。

自己資本比率

9.22%

※2023年3月末現在

自己資本比率 (単位: 百万円)

項目	2022年3月末	2023年3月末
コア資本に係る基礎項目の額 (A)	316,544	323,355
コア資本に係る調整項目の額 (B)	2,338	3,015
自己資本の額 (A) - (B) = (C)	314,205	320,340
リスク・アセット等の額の合計額 (D)	3,483,839	3,472,125
単体自己資本比率 (C) / (D)	9.01%	9.22%

経営の健全性

経営の健全性をはかる指標のひとつに、開示債権比率があります。これは、貸出金額に対して開示債権がどれだけあるかを示したもので、低い数値ほど資産の健全性が高いことを意味しています。「開示債権」は、何らかの理由により、約定通りの返済が困難な取引先に対する貸出金のことです。

〈中央ろうきん〉の開示債権比率は、0.55%ときわめて低く、健全性の高さが数値に表われています。

労働金庫法及び金融再生法上の開示債権比率

0.55%

※2023年3月末現在

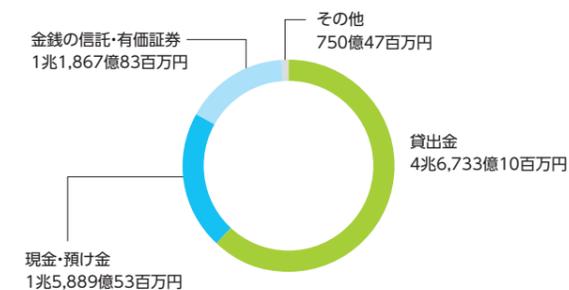
労働金庫法及び金融再生法上の開示債権比率 (単位: 百万円)

項目	2022年3月末	2023年3月末
労働金庫法及び金融再生法上の開示債権 (A)	26,866	25,851
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	7,128	6,930
危険債権	18,675	18,262
要管理債権	1,063	659
三月以上延滞債権	961	647
貸出条件緩和債権	101	12
正常債権	4,662,260	4,649,704
総与信残高 (B)	4,689,127	4,675,555
労働金庫法及び金融再生法上の開示債権比率 (A) / (B)	0.57%	0.55%

※金額は決算処理後のものであり、単位未満を四捨五入しています。

資産の内訳 ※2023年3月末現在

「資産」とは、皆様からお預かりした資金の運用状態を示す諸勘定のことです。主なものに貸出金や預け金があります。

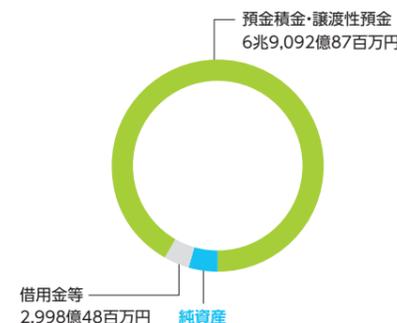


資産合計

7兆5,240億94百万円

負債・純資産の内訳 ※2023年3月末現在

「負債」・「純資産」とは、資金の調達形態を示すものです。「負債」の主なものとして預金積金があり、「純資産」には出資金、利益準備金など下記の①～⑤に記載するものがあります。



純資産

3,149億58百万円

① 出資金	289億16百万円
② 利益準備金	293億32百万円
③ 特別積立金	2,431億5百万円
④ 当期末処分剰余金	120億21百万円
⑤ その他 (その他有価証券評価差額金・繰延ヘッジ損益・土地再評価差額金)	15億83百万円

負債・純資産合計

7兆5,240億94百万円

負債

7兆2,091億36百万円

純資産

3,149億58百万円

収支の状況 ※2022年度

貸出金利息などの	資金運用収益	719億10百万円
+		
受入為替手数料などの	役務取引等収益	39億31百万円
+		
国債等債券売却益などの	その他業務収益	41億92百万円
+		
	その他経常収益	12億7百万円
経常収益		812億41百万円

預金利息などの	資金調達費用	22億71百万円
+		
支払為替手数料などの	役務取引等費用	129億65百万円
+		
国債等債券売却損などの	その他業務費用	38億60百万円
+		
人件費・物件費などの	経費	466億50百万円
+		
	その他経常費用	23億46百万円
経常費用		680億94百万円

経常利益 131億47百万円

特別利益 —

特別損失 4億35百万円

税引前当期純利益 127億11百万円

法人税、住民税および事業税 27億81百万円
法人税等調整額 4億51百万円

当期純利益

94億79百万円